

原文	修正文
日本海軍の連合艦隊を率いる東郷平八郎司令長官は、1905(明治38)年5月26日、<u>決戦の前日決断し、北九州、対馬間にある対馬海峡に全艦隊を出動させ待ち受けた</u>。ロシア側は遠路の航海による疲労がはげしかったのに対し、この間、日本海軍はじゅうぶん休息をとり、砲撃の猛訓練で<u>ロシアの3倍の命中率を身につけた</u>。 不正確である。	日本海軍の連合艦隊を率いる東郷平八郎司令長官は、1905(明治38)年5月26日<u>までに</u>、対馬海峡に全艦隊を集結させた。ロシア側は遠路の航海による疲労がはげしかったのに対し、この間、日本海軍はじゅうぶん休息をとり、砲撃の猛訓練をつんでいた<u>ので、命中率を高めていた</u>。